

第三節 米軍のレイテ上陸より終戦迄の鐵道作戰指導

一、本期に於ける鐵道作戰一般の經過

昭和十九年十月米軍は遂にレイテ島に上陸續いて昭和二十年一月には呂宋島、二月には硫黄島、三月には沖縄へと戦局は加速度的に進展して行つた。

かくて大和民族の興亡を決すべき本土決戦は進展する戦局の重壓と逐次激化する空襲の下著々と準備されたが八月廣島及長崎に対する原子爆弾の投下並に蘇連の参戦を契機として八月十五日終戦となつた。

此の様な戦局の推移に即應して大本營の鐵道作戰指導は「内地鐵道決戦態勢の確立」と「日鮮滿支一貫輸送力の増強確保」の二大施策を超重點として進められた。

即ち比島作戰以来の船舶の消耗と本土近邊の海上不安の増大は本土決戦準備の強化と相俟つてそれ迄逐次強化された大陸轉嫁輸送に最

後の努力を要求されるに至り昭和十九年十二月中旬大本營は大陸鐵道一貫輸送の強化を企圖して大陸鐵道隊の編成を令し大陸特に滿洲朝鮮に於ける鐵道部隊と劃期的に増強し且大陸轉嫁輸送を大陸鐵道司令官をして管掌せざるやう処置する所があつた。次で支那鐵道に對する軍管理、滿鮮鐵道に對する軍事使用に關する勅令を發動此等大陸鐵道を名実共に軍機關として大陸轉嫁輸送の完遂に最後の努力を續けた。此の間内地鐵道は鐵道部隊の増強整備、鐵道防空対策の強化、鐵道義勇戰團隊の編成等逐次作戰準備を進め特に空襲下に於ける本土決戰準備の第一段階たる九州戰備強化の爲の集中（展開）輸送等其の成果見るべきものがあつたが平時準備の不足は根本的變換を行ふに至らず作戦的に見て満足すべき状態にはならなかつた。此の間南方に於てはインパール作戦の失敗以来逐次敵の壓迫を受け漸次其の戰面を收縮し更に比島作戦の失敗から南方—内地の交通完全遮断されるに至つて南方軍は自戦自活の孤立作戦に移行するの

六四

0848

止むを得ない結果となつた。支那に於ても支那派遣軍は一時桂林、柳州、獨山迄占領したが米軍の中南支沿岸に上陸を豫想するに至り昭和二十年二月頃より逐次其の作戦の重點を中南支沿岸特に揚子江下流地域へと轉換して行つた。一方滿洲は対蘇持久の方針を以て専ら比島本土の対米決戦に専與すべく努力を續け昭和二十年五月沖繩失陥以降の蘇連の動向に鑑み滿洲防衛の作戦準備に入つたが蘇連参戦と共に大なる戰鬪を交ふる事無く終戦を迎へた。

此の様にして大陸南方の作戦は極めて大なる變換を見之に伴ふ鐵道作戦も亦困難を顧めたが此の期に及んで大本營は既に人的物的に大なる支援を與へる事が出来ず概ね一切を擧げて各方面總軍の指導に一任するに至つた。

三 内地鐵道

サイパンの失陥以來本土決戦の避くべからざるを豫察した大本營は先づ内地鐵道隊を増強すると共に運輸省に対し其の決戦態勢の確立

を要望し本土決戦に應ずべき鐵道作戰準備の第一步を踏み出した。比島、沖繩に利あらず軍は昭和二十年五月頃より本格的決戦準備に入つたが當時大本營の鐵道作戰指導の方針は一鐵道は大本營統轄の下軍事輸送は内地鐵道隊を以て処理せしめ鐵道の管理運営は運輸省の担任とし軍は全面的に之を支援する」と云ふにあり逐次増強された内地鐵道隊を以て日に日に激化するB-29の空襲に対し鐵道防空を強力に指導支援して行つた。

然し激化する空襲と一旦本土に於ける決戦生起の場合に於て果して此の程度の考案方で鐵道の確保が可能かどうかは常に危惧された事であり之に対して大本營は「状況によつては運輸省を全面的に軍機關として大本營の直接指揮下に入らしめ又は方面軍の指揮又は區処に入らしめしべき腹案で準備を進めて居た。此の考へ方は先づ鐵道義勇隊編隊の編成となり八月一日に其の編成式を擧げるに至つたが其の後の活躍を見ず終戦となつた。

内地鐵道部隊の増強

昭和十九年七月以降内地鐵道司令部、教導鐵道團、鐵道大隊を次々と編成統合して本土決戦に應ずべき鐵道隊として其の第一歩を踏み出させた。大本營は其の後逐次其等の内容を整へると共に昭和二十年三月には内地鐵道司令部の編成を劃期的に強化し従來の支部を改編して地區鐵道司令部とし鐵道部隊の運用に遺憾をからしめた。

次いで四月には鐵道第二聯隊を滿洲より九州地區に轉用し六月に入つて獨立鐵道作業隊の編成に着手し逐次終戦に至る迄四十隊の編成を續行した。そして終戦時に於ける内地鐵道兵力は左の通りである。

左記

内地鐵道司令部

地區鐵道司令部

教導鐵道團司令部

鐵道聯隊

獨立鐵道大隊

獨立鐵道作業隊

停車場司令部

三

八

四〇（内一六は編成中）

二三

2. 内地鐵道決戰態勢の整備

前述の様に戦局の進展に伴つて大本營は逐次内地鐵道の決戰態勢
確立を運輸省へ要望して居たが昭和二十年二月鐵道總局は自ら鐵
道決戰態勢」を施行し全従事員に階級を附し服務規律の嚴正を要
求し決戰施策の劃期的促進へと其の一步を進めた。

併しこの施策も軍の要望とは遙かに遠く誠に微温的なものと考へ
ざるを得なかつた。

丁度昭和二十年春頃より本土決戰準備の一施策として全國民を國
土防衛の戰鬥員たらしめんとする國民義勇戰鬥隊の編成が研究さ

0852

たが鐵道部門に之を採用せんとする大本營の方針と鐵道總局の希望とは圖らずも一致し其の後兩者一体となつて研究を續け本法令の施行に伴ひ八月一日全國に懸けて鐵道義勇戰團隊の結成を見るに至つた。

鐵道義勇戰團隊は運輸省鐵道部門に私鐵、自動車其の他の小運送機關等を加へ之を一丸とする大組織で其の活躍が期待されたが終に其の成果を見ずして終戦になつた。

左記

- | | |
|----------------|----------------------|
| 鐵道總局長官 | 鐵道義勇戰團司令 |
| 鐵道總局 | 鐵道義勇戰團司令部 |
| 各鐵道局 | 聯合鐵道義勇戰團隊 |
| 各管理部（及之に準ずるもの） | 鐵道義勇戰團隊 |
| 現場機關 | 夫々其の規模に應じ
鐵道義勇戰團隊 |

三 大陸鐵道

大陸鐵道隊の編成

本土決戦準備のため大陸方面より内地に対する兵力及物資の輸送には対蘇作戰の場合とは正反対な逆集中と云ふ形を採り空襲の脅威愈々加はる中に如何にして大陸鐵道の一貫輸送路を確保するかが大本營の重大な課題となつた。ことに於て昭和十九年十二月中旬大本營は「大陸鐵道一貫輸送態勢の強化を企圖しして従来の關東軍野戰鐵道隊の編成を解き新に編成した鐵道部隊を加へて關東軍の編成中に大陸鐵道隊を編成した。そして昭和二十年三月には更に鐵道部隊を増強して之を整備し其の内容を充実した。

大陸鐵道隊編成（概要）

鐵道義勇戰闘區隊

鐵道義勇戰闘分隊

七〇

0854

司令官 大陸鐵道司令官 草場辰巳

大陸鐵道司令部

關東軍鐵道隊

第三鐵道監部

鐵道聯隊 二

特設鐵道隊 二

鐵道材料廠 一

朝鮮鐵道隊

第五鐵道監部

鐵道大隊 六

鐵道材料廠 一

停車場司令部 若干

直轄部隊

鐵道聯隊 二

0855

獨立鐵道大隊 五

停車場司令部 若干

裝甲列車隊 二

かくて従来から全く鐵道隊を持たなかつた朝鮮にも鐵道大隊が配置され大陸一貫輸送の重要部分をなす朝鮮鐵道の確保に一大威力を加へたのであつた。

この大陸鐵道隊の編成と共に參謀總長は鮮滿支に於ける鐵道隊の相互運用に關して御委任を受け大陸鐵道司令官も亦鮮滿支一貫輸送に關して支那に於ける鐵道部隊に対する區処權を附與され次で行はれた支那鐵道の軍管理鮮滿鐵道に対する軍事使用に關する勅令の発動と相俟つて鮮滿支一貫輸送力確保の態勢はここに確立するに至つた。

もつとも單に鮮滿支一貫輸送の現地からは大本營直轄の下に眞に鐵道管理機關を統合し且軍事鐵道機關を單一系統に改編し更に進

んで之等を行つて一丸とした新組織を完成する事こそ理想的であり若干の研究が試みられたが朝鮮、滿洲、支那と其の統治主權を異にし且朝鮮軍、關東軍、支那派遣軍と夫々作戰上の要求を異にする當時の状況に於てはこの程度こそ可能にして最大限の案であつたと見るべきであらう。

2. 朝鮮鐵道の複線化促進

鮮滿支連絡たる京釜、京義、安奉、奉山、京山の諸線に對しては早くから其の複線化が企圖され京釜、京義、奉山等の諸線が既に複線化され加之大陸轉嫁輸送の要請は日に日に増大するに拘らず京義線のみは昭和十九年上半期を過ぎるも完成しなかつた。其の主なる理由は資材の不足にあつたので大本營は滿洲作戰資材の流用大石橋以南の連京線の撤去轉用等凡ゆる努力を拂つて之を促進した。滿鐵としては情勢の變化とは云へ自ら発祥の線路を撤去する事は誠に感慨無量なるものがあつたと思はれる。

こうして京義線は昭和二十年二月複線工事を完成（一部橋梁を除く）辛うじて最後の大陸轉嫁輸送に寄與することが出来た。

七四

3. 大陸鐵道の軍管理並に軍事使用

対蘇作戰準備のため昭和十七年六月公布された滿洲、朝鮮、樺太、台灣鐵道に対する軍事使用に關する勅令は戰局推移の變化によつて其の後發動すべき機會がなかつた。

然るに支那特に北支の鐵道が酷寒と空襲、匪襲等の激化によつて抜本的対策を要するに至つたのと大陸轉嫁輸送が最後の努力を要請されるようになり大本營は昭和二十年一月當時の教導鐵道團長加藤定少將を長とし大本營其他關係各省の主任者を以て編成した大陸鐵道視察班を派遣して具に現地を視察させ其の報告に基いて昭和二十年支那鐵道を軍管理とし同時に鮮滿鐵道に対して軍事使用に關する勅令を發動した。

こうして大陸鐵道特に支那鐵道は名実共に軍機關として再出發し

0858

たのであつたが其の後の成果は劃期的に舉り大陸轉嫁輸送を完遂し且支那鐵道を其の空襲匪變より確保した。滿洲及朝鮮鐵道の軍管理に關しては支那鐵道に於ける軍管理の成果に鑑み最後の決戰態勢整備を期して五月頃具體的研究に入つたが現地軍の意見一致せず又前記勅令の発動によつて大部の實質的效果を收めて居つたため之を強化する必要を認めず實現を見るに至らなかつた。

4 大陸轉嫁輸送の強化

戦局の進展について大陸轉嫁輸送の要請が愈々強化されて行つた事は前述の通りであるが元來この輸送物件の内容は單に軍隊軍需品のみならず一般の物資が其の大半を占めて居たためこの輸送の計畫並に実行に當つては關係する所極めて多方面に亘り複雑な処理を必要とした。随つて明かに軍事輸送でないこれら大半の輸送も大本營の統制と責任に於て実行せねばならぬ結果となり大本

營輸送當業者の苦心は誠になみなみならぬものがあつた。それ
も拘らず現地機關としては其の輸送物件の内容上責任の所在明確
を缺き能率發揮の遺憾の點が少なくなかつた。此処に於て大本營
は大陸鐵道隊の態勢整備に伴つて大陸轉嫁輸送を眞に軍の責任に
於て強力に推進しようと企圖し昭和二十年三月以降大陸鐵道司令
官をして之を管掌せしめ軍事輸送に準じて之を実施するよう処置
した。

斯くて大陸轉嫁輸送は前述した朝鮮鐵道の複線化其他各種の諸
施策並に大陸鐵道機關の眞剣なる努力と相俟つて劃期的成果を擧
げ以來殆ど計畫通り之を完遂して本土決戦に寄與する所偉大なる
ものがあつた。次で米軍の沖繩來攻に伴ひ朝鮮海峽は極度に危険
となり輸送の重點は北鮮に變換大陸より北鮮日本海經由裏日本へ
の経路をとるようになった。此の爲船舶輸送力の關係から全般輸
送量は漸次減少したが終戦迄續いた。

0860

この大陸轉嫁輸送こそ大陸鐵道が正に本土決戦に突入りようとした祖國に対する餞として眞に軍體一体となつて行つた掉尾の努力であり大陸鐵道最後の偉業として永く鐵道史上に特筆さるべきものである。

5. 支那に於ける作戰方針の變換に伴ふ鐵道作戰

前述の様に支那派遣軍は昭和二十年三月頃以降従来の對重慶作戰を對米作戰へと轉換したが鐵道も亦之に伴ふて従来湘桂作戰のため使用されて居た鐵道部隊の大部を徐州江南の津浦線及海南線に轉用して對米決戦へ即應する態勢を整へるに至つた。大本營はこの支那派遣軍の意見具申によつて支那派遣軍鐵道隊の編組を改め新に中支那鐵道隊を編成し此の作戰遂行に遺憾をからしめた。

6. 蘇連參戰と鮮滿鐵道

昭和二十年八月九日突如として行はれた蘇連の參戰に對して鮮滿鐵道は何等直接的準備無くして之を迎へた。

七八
此処に至つて既に鐵道作戰指導の何物をも行ひ得なかつた大本營は一切を現地軍に委すの外無く僅かに其の鐵道幕僚一を増加參謀として新京に派遣して關東軍の業務を補佐せしむるよう処置を講じたがこれは大陸鐵道に対する大本營として最後の禮儀であつた。

四 南方鐵道

南方防衛作戰が逐次激化するにつれ大本營は南方に於ける軍事鐵道機關、鐵道隊、鐵道管理機關を打つて一丸とする鐵道隊の編成並に之が運用機權の確立に關して指導を續けて行つたが比島作戰の失敗から南方との交通完全に遮斷し爾後人的物的に何等の補給援助を爲し得ない状態となつた爲昭和十九年末其の一切の運用を南方軍總司令官に一任するに至つた。

一方南支に於ける作戰の成功によつて南方軍としては「海上ル―」の遮斷に伴ひ唯一の連絡路を陸上に求めんとして南支、佛印を結ぶ

0862

連接鐵道の建設を熱望する所があつたが大本營は一般の情勢と資材の關係之を許さずとして其の企圖を断念させた。事ここに至つて南方鐵道は軍の作戰方針に即應して其の重點を泰及泰緬甸連接鐵道並に此等周邊の鐵道に變換更に局地輸送力と化した船舶との綜合運用に遺憾をからしむるため鐵道船舶を統合して南方軍交通隊を編成逐次戦局の要請に對処した。

五 鐵道部隊

太平洋戦争當初僅かに

野戰鐵道司令部

二

鐵道輸送司令部

三

鐵道監部

三

鐵道聯隊

六 (別記同補充隊二)

特設鐵道隊

三

鐵道材料廠

三

停車場司令部
 若干
 八〇
 の兵力を以て之に臨んだ国軍鐵道部隊も其の後既に述べた如き累次の増強によつて

- 鐵道-野戰鐵道-司令部 五
- 鐵道輸送司令部 三 (内一は比島にて壊滅)
- 鐵道監部 五 (内一は教導鐵道團司令部)
- 鐵道聯隊 二〇
- 獨立鐵道大隊 (之に準ずるものを含む) 三三
- 特設鐵道隊 二
- 特設鐵道工務 (橋梁) 隊 二
- 鐵道作業隊 四〇 (内一六は編成中)
- 鐵道材料廠 五
- 野戰鐵道廠 三
- 停車場司令部 七九 (内甲三二、乙四七)

0864

裝甲列車

となり其の總兵力約一〇万を超へ愈々激化する敵の決戦的爆撃の下
正に鐵道確保作戦の本格的段階に突入しようとして圖らずとも終戦を
迎へた。

當時に於ける國軍全鐵道部隊の指揮隷屬系統は別紙第二の通りであ
つた。

第三章 各地鐵道の運用

第一節 内地鐵道

第一款 軍事輸送

其の一 軍事鐵道機關

一、太平洋戦争前に於ける軍事鐵道機關の變遷

滿洲事變から支那事變勃発迄の内地鐵道には軍事鐵道機關として參
謀本部に鐵道課があるに過ぎなかつた。随つて現実の軍事輸送も動

0865